【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第５部門第２区分
【発行日】令和6年12月6日(2024.12.6)

【公開番号】特開2023-96692(P2023-96692A)
【公開日】令和5年7月7日(2023.7.7)
【年通号数】公開公報(特許)2023-127
【出願番号】特願2021-212616(P2021-212616)
【国際特許分類】
Ｆ１６Ｆ 15/139(2006.01)
Ｆ１６Ｆ 15/134(2006.01)
【ＦＩ】
Ｆ１６Ｆ 15/139 Ｃ
Ｆ１６Ｆ 15/134 Ａ

【手続補正書】
【提出日】令和6年11月28日(2024.11.28)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７０】
一方、図３Ｄに示すように、ダンパ装置１が第２捩り状態となる、すなわち、入力回転体３０に対してハブフランジ４０が中立状態からＲ１側（負側）に角度θ１だけ捩れると、第２支持部３０２と第２収容部４０２とのオフセット量が「０」となる。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１１６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１１６】
また、捩り角度が４°以上では、当接面６４１ａと第２窓セットｗ２のコイルスプリング５１の端面との隙間は常に２°に維持される。この隙間２°は、規制突起６１ａと孔４２ｃのＲ２側の隙間（４°）からオフセット量相当捩り角度（２°）を差し引いた角度である。したがって、捩り角度が４°以上の高捩り角度領域では、前述の２°（相対捩り角度）の角度範囲内において、摩擦部材ＦＰは入力回転体３０とともに作動可能である。すなわち、相対捩り角度が２°の角度範囲（微小捩り角度範囲の一例）内では、ヒステリシストルクは発生しない。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１１７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１１７】
したがって、捩り角度が４°以上（絶対角度）の高捩り角度領域では、比較的大きなヒステリシストルクを得ることができるとともに、絶対的な捩り角度が４°以上のある捩り角度において、入力回転体３０とハブフランジ４０との相対的な捩り角度が２°の微小捩り角度範囲内では、ヒステリシストルクは発生しない。したがって、捩り特性において高捩り角度領域である走行領域では、微小なトルク変動を効果的に減衰することができる。